

丹波縄文の森塾 活動報告



令和6年10月19日（土） 雨

枝豆とり



クラフトづくり



昔ながらの脱穀体験



水生生物の話



昔ながらの脱穀体験、サツマイモ掘り、水生生物の観察を予定していましたが、あいにくの雨で予定を変更。まず、前日にサポーターの津田さんの畑からいただいた枝豆の鞘（さや）から取り出しました。一度ゆでてから取り出すところを、きょうは生のままで取り出し作業をしたので、少し苦労しました。

サツマイモ掘りの代わりにの体験は、正月飾りに使うクラフト作り。来年の干支（えと）、巳（へび）にちなんで、マツボックリとドングリを使ってへびを制作しました。きょう作ったクラフトは、12月にしめ縄につけて来年の正月飾りにする予定です。

昔ながらの脱穀体験では、千歯扱き（せんばこき）と足踏脱穀機（あしぶみだっこき）を使って粃（もみ）を落としました。今ではコンバインで稲刈りから脱穀まで一気に行いますが、昔の道具で脱穀する貴重な体験ができました。

昼食は、枝豆ご飯とクリームシチュー。きょう鞘から出したばかりの新鮮な枝豆がたくさん入った枝豆ご飯、最高においしかったです。苦労して豆をとった甲斐がありました。また大きな鍋のクリームシチューもお代わりをいっぱいしました。

午後は、雨のため水生生物観察の代わりに、「丹波地域のホトケドジョウを守る会」のみなさんから、ホトケドジョウについて紙芝居やクイズなどを通して、教えていただきました。

とっても愛嬌のあるホトケドジョウは、日本固有の淡水魚で兵庫県では丹波市にのみ生息している貴重な生き物。その他の水生生物についてもカルタで楽しみながら学ぶことができました。

森づくり活動アドバイザーの角谷さんからは、秋の七草について学びました。春の七草は「食」を楽しむものですが、秋の七草は、「見ること」を楽しむもののようです。最後に、クラフト作品とともにサポーターからいただいた枝豆とお芋をおみやげにもって帰りました。